

6回目の辰年を迎えて

6回目の年男を迎えるにあたって、皆様方の温かいお心遣い身に染みて有難く感謝いたします。

日本中跳ね廻った兎年の傷が癒えぬまま、いつの間にか私は6回目の年男を迎えることになりました。昭和51年の辰年、36才で開業しましたから人生の半分は透析医療に携ってきたことになりました。この間多くの人々に援けられ、瀬戸際の危い時もありましたが、大旨無難に過ごせてこれましたことは、偏に皆様方のお力添えによるものと厚く感謝いたしております。ITIreportのごとく自己確立のないままに医師となった前半生に比べますと、36才辰年の開業は私にとって多くの人々との関わりのなかで自分自身を見つめ直すいい機会でもありました。

それは人と人との関わりや貴重な体験を通して、混沌のなかにも喜びや悲しみとともに自分の持てる能力以上のものが発揮でき、今を迎えられることに改めて感謝いたします。

世の中は思いのままにならぬことを知り、また思わぬ幸運に出会い、いつの間にか手の内に大切なことを把んでいたり、たとえ遊びごとであっても人と人との交わりは己の人生を豊かにしてくれることを知りました。

今、はまゆう会は大切な節目を迎えています。世代交代を控えています。この36年間にそれぞれの時の違いはあれ、スタッフの皆様は格段に成長され、患者さんに信頼されるプロフェッショナルへの道を歩まれておられます。これからは新しくはまゆう会に来られた若い人達とのギャップをいかに解消し、これ迄お互いの信頼のもとに築き培われた制度や企業文化をいかに根付かせ、継続発展させていくかが今後の課題でしょう。

“どうせ、あちらには 手ぶらで行く、一城山三郎―” には Every failure is a stepping-stone (失敗は次の一步にすぎない) の言葉が最後に遺されています。

皆様 失敗を恐れてはなりません。

体を動かすことを嫌うてはなりません。

勇気をもって事にあたって下さい。

昨年来“ローマ人の物語”と“ダンテの神曲”の読破に挑戦してみました。どうかリンゴで足踏みすることなく思い切って未来への河を渡って下さい。必ずしもベアトリーチェの甘き香に浸れるとのお約束はできませんが、あなたにとって、そこには確実に何かがあるのではないのでしょうか。

感謝

平成24年1月19日

理事長 市丸 喜一郎